

PAG-ASA

JFC 奨学金基金報告

パグアサー 夢・希望
2016年12月

【トヨタ財団助成金プロジェクト：安全な移動と定住に関するコミュニティの役割についての政策提言：第2回マニラワークショップ開催】

2015年11月に始動し、在比・在日 JFC 達、母親/保護者達、日本側 NGO やフィリピン側 NGO が協力をして行ってきたプロジェクトも終盤に近づきました。目標の一つであった来日に関するアドボカシービデオが完成しました。このビデオは JFC 母子達を対象とした違法エージェンシーによる人身売買問題について被害者の JFC 母親のインタビューも含まれています。また、JFC 問題だけではなく、技能実習生制度に潜む問題や外国人家事労働者受け入れについても解説されています。

2016年10月15日ケソン市カティプナン地区にて、マリガヤハウスと Batis Center for Women の JFC 母子達や海外労働出稼ぎや海外移住に関わるフィリピン政府機関の代表を招いて、アドボカシービデオ観賞会とワークショップを開催しました。JFC ネットワーク奨学生達のほとんどが日本国籍を取得しているため、彼らとその母親達にも参加してもらいました。

今回のワークショップのタイトルは「Philippine-Japan Migration: Aspirations and Difficulties of JFCs and Mothers フィリピン-日本移住:JFC と母親達の熱望と困難」です。ビデオ観賞会、そして当事者である JFC 母子達、フィリピン政府そして日比 NGO が共に日本への移住・労働に関しても問題や考えをシェアし、人身売買の被害に遭わないよう法に沿ったリクルートメントの知識を得る事を目的としています。

まず初めに、JFC 母子達がどうして日本に行きたいのかを再確認するため、母親グループと JFC グループに分かれて意見発表を行いました。母親達からは、「子ども達のゴールを実現させてやりたい」「子ども達には日本で生活し働いてもらいたい」「過去に日本に行ったのは生活のためだけれど、子ども達がより良い将来を手に入れる事が今の自分の夢でありゴール」「子どもに日本国籍を取得させたい」「子どもに日本にいる父親に会わせたい」「自分達も経済的な安定を手に入れたい」という意見

が出ました。JFC 達からは「日本にいる父親と親戚に会いたい」「日本の習慣を知るため日本に住みたい」「将来的に安定した仕事と生活を得たい」「JFC としての権利として日本のカルチャーを知りたい」「日本で働く機会を得てフィリピンの家族を助きたい」「日本で働きながら父親を探し、自分のアイデンティティを見つけない」と言う意見でした。それぞれ意見がでましたが、共通する事は JFC 母子達の来日への熱望でした。



現実には、彼らの来日への熱望を悪用し、違法な就労斡旋をするエージェンシーがフィリピンには多くあり、沢山のJFC母子達が労働搾取や人身売買被害に遭っています。自分達が被害に遭わないためにどうすれば良いのか、フィリピン海外雇用庁(Philippine Overseas Employment Administration: POEA)のセルソ・ヘルナンデス ジュニア弁護士に雇用政策について、エージェンシーによる労働搾取や人身売買などの違法行為について、POEAが設定している法に沿ったリクルートメントについて話をしてもらいました。その後、フィリピン海外移住委員会(Commission on Filipino Overseas: CFO)のアイビー・ミラヴァレスさんに、フィリピン国籍の海外移住の現状について、2014年フィリピン人が結婚した外国籍の配偶者の統計2位が日本人であること、外国籍配偶者との法的問題やドメスティックバイオレンスについて、そして日比在住のJFC達が抱える経済的・法的・カルチャー的問題について事例を挙げながら話をしてもらいました。



このプロジェクトの成果物であるアドボカシービデオ鑑賞後、オープンフォーラムが開かれました。JFC母子達からは、来日のためのビザ取得(特にフィリピン人母親達のためのもの)問題についてシェアリングがありました。JFCと一緒に来日する母親達は来日のためにビザを取得する必要がありますが、ビザの保証人を見つけることができません。そのため、違法な就労斡旋を行うエージェンシーの中には、来日後の雇用主を保証人にして母親のビザを取得し、多額の借金を負わせて労働搾取をするケースもあります。しかし、JFC母子達は保証人を提供してくれるエージェンシーに行ってしまいます。アイビーさんから、「雇用主やエージェンシーがビザの保証人になるべきではなく、違法な就労斡旋をするエージェンシーはPOEAに通報するべきです。また、慈善団体と言いながら就労斡旋している団体も違法です。しかしながら、来日する事はとても大変なことで、ビザ発行は日本大使館がおこなっており、書類審査が厳しいのが現実です。このビザ保証人問題について、今後はフィリピン政府、日本政府、日比NGOで話し合っていく必要があります。」と話してもらいました。



最後のアセスメントで母親グループとJFCグループから、安全に日本へ移住するための解決策についてシェアリングをしました。母親グループからは、「就労斡旋エージェンシーがPOEAに登録されていて信用できるものであるか確認する事が重要。」「日本に移住した後も色々な問題に直面するが、このようなセミナーに参加して自分達の権利について理解するべき」「日本国内のNGOや教会など支援団体を知っておくべき」などの意見が出ました。JFCグループからは、「自分を守るのは自分自身であるので、そのためにも自分自身を成長させておくべき」「日本へ移住することだけを考えるのではなく、別の機会も考えてみる事も必要」「行動をする前に慎重に考え、賢い自己決定を行う」「言葉の壁を乗り越えるため、日本語やカルチャーを学ぶ」などの意見が出ました。